

壮瞥町子ども読書活動推進計画
(第二次計画)
「より深く豊かな人生を育むために」
平成26年度～平成30年度

平成26年4月

壮 瞥 町 教 育 委 員 会

目 次

はじめに

第1 壮瞥町読書活動推進計画の基本的考え方

- 1 計画策定の目的
- 2 計画策定の基本
- 3 計画の目標
 - (1) 子どもの読書活動の環境づくり
 - (2) 学校地域社会が連携した読書活動を推進するための環境づくり
- 4 計画期間
- 5 第1次計画における成果と課題

第2 読書活動推進施策

- 1 家庭・地域・学校等を通じた社会全体での子どもの読書活動の推進
 - (1) 家庭における読書活動の推進
 - (2) 地域における読書活動の推進
 - ① 図書室での読書活動の推進
 - ② 地域に対する読書活動の推進
 - (3) 学校等における読書活動の推進
 - ① 子どもの読書習慣の確立と読書指導の充実
 - ② 学校図書館を活用した教育の推進
 - ③ 保育所での読書活動の推進
- 2 子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備
 - (1) 壮瞥町における取組
 - (2) 学校図書館における取組

はじめに

平成13年12月、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されました。

北海道では、平成25年3月に「生きる力をはぐくむ北の読書プラン」（第3次計画）を策定し、子どもの読書活動推進の取り組みがなされています。

壮瞥町でも、この法律に基づき「壮瞥町読書推進計画」（平成20年度～平成25年度6ヶ年計画）を策定し、子どもの読書活動を中心に各種読書活動の推進に取り組みました。

この計画期間における壮瞥町図書館の利用状況は以下のとおりでした。

	町人口(人)	蔵書冊数(冊)	利用者数(人)	貸出冊数(冊)
平成20年度	3,001	16,763	2,317	4,539
平成21年度	2,969	11,917	6,204	12,538
平成22年度	2,907	13,419	5,763	14,160
平成23年度	2,800	14,790	5,356	12,444
平成24年度	2,763	15,405	5,075	12,847
平成25年度	2,733	16,678	5,349	13,387

壮瞥町では、平成21年に山美湖図書館が開館し、併せて図書司書を配置するなど読書活動を推進する環境を整備しました。

明るく開放的で、利用しやすい図書館は、利用者にも好評で、平成21年度の利用者数及び貸出冊数は、前年度の3倍近くに伸びました。

これからも、子どもの読書活動を推進していくためには、家庭・地域・学校等が、関係機関や団体等と、緊密な連携と相互協力によって、社会全体で取り組んでいくことが求められています。

読書は、他者とのよりよいコミュニケーションを築く上で欠くことのできないものであり、乳幼児期の読書は、親子の絆を深め、言語的成長を促すうえで極めて有効な手段といえます。

また、児童生徒にとっては、読書によって得られる知識や読解力は、会話をはじめとするコミュニケーション能力を伸ばし、子ども時代の自己形成に大いに資するものであり、そのために必要な環境を社会全体で整備することが望まれています。

壮瞥町では、読書好きな子どもが増え、読書活動が盛んな町を目指して「第2次壮瞥町子どもの読書推進計画」を策定しました。

第1 壮瞥町子どもの読書活動推進計画の基本的考え方

1 計画策定の目的

読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないもの」であり、社会全体でその推進を図っていく必要があります。

このような中「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月12日施行）に基づき、国、道は「子どもの読書活動の推進に関する基本計画」を策定し、現在3期目の計画に取り組みを進めているところです。

壮瞥町でも、法律の基本理念を尊重し、すべての子どもが、様々な機会と様々な場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にその環境整備を図っていきます。

2 計画策定の基本

本計画は、次の考えを基本に策定します。

- (1) 「子どもの読書活動の推進に関する法律」を策定の基本とする。
- (2) 国及び北海道で策定した基本計画を参考にする。
- (3) 「子どもの読書活動」を促進するための諸条件を整備する。
- (4) 新たな施策に限らず、既定の継続事業についても見直しを行い、計画を含め、継続・拡充を図る。

3 計画の目標

子どもの読書活動を推進し、読書活動が盛んなまちづくりを進めるため、子どもの読書活動に関する総合的・計画的な環境整備を進めます。

- (1) 子どもの読書活動の環境づくり
乳幼児期からの読書に親しむ機会作り、小学生からの読書習慣の形成をしていくための環境づくりを支援する。
- (2) 学校、地域社会が連携した読書活動を推進するための事業展開
 - ① 読書の喜びや楽しさを伝えるため、小中学校への読書啓発事業を展開する。
 - ② 子どもの読書活動に関する理解や関心を深めるため地域の読書活動グループの活動する場や交流を支援する。

4 計画期間

平成26年度から平成30年までの5年間とします。

5 第1次計画における成果と課題

《1. 家庭、地域、学校における子どもの読書活動の推進》

【成果】

- ・ 家庭、地域における子どもの読書活動の推進として、就学前児童に対する専用貸出カードの配付、図書ボランティアによるお話し会の実施、「図書フェスティバル」の毎年開催など各種取り組みを行い、読書活動の推進に繋げた。
- ・ 学校における読書活動の推進として、ボランティアによる読み聞かせ、朝読書の推奨、移動図書事業、「学校ブックフェスティバル」の開催など、児童生徒の読書活動の充実を図った。

【課題】

- ・ 乳幼児では、専用貸出カード「ぴよちゃんカード」が、スタンプの収集のみを目的している部分も見受けられることから、純粋に本に親しむ取り組みを充実させる必要がある。
- ・ 児童生徒の山美湖図書室の利用が減少する傾向にあることから、読書に興味を持ち、学校図書館、図書室の利用促進に繋げるために何が必要かについて、図書担当教諭と十分な意見交換が必要である。

《2. 施設、設備などの諸条件の整備・充実》

【成果】

- ・ 山美湖図書室の施設整備に併せ、図書司書の配置、新刊図書の展示、キッズコーナーの設置、図書の返却ポストの設置など、来館者が利用しやすい図書室運営を図った。また、蔵書の充実のため、利用者の要望に応じた新刊図書を購入を進めた
- ・ 学校図書館では、児童生徒が利用しやすい環境整備作業をの一環として、全ての学校の蔵書のデータベース化を進め（小学校においては完了）、図書貸出システムの運用を行っている。

【課題】

- ・ 図書室の蔵書は、今後増加が見込まれることから、図書分室を利用した適切な蔵書管理が必要である。また、児童生徒が学習に活動に利用できる図鑑や専門書の定期的な購入や、映画やアニメなどの映像資料の整備が必要である。
- ・ 中学校、高校の学校図書館のデータベース化が完了していないことから、早急に作業を進めるとともに、読書に興味関心を持ってもらえる学校図書館の運営アドバイスが必要である。

《 3. 読書推進ネットワークの整備》

【成果】

- ・ 図書司書が、担当教諭や保育士と移動図書の回数や冊数などについて協議を行い、学校、保育所と山美湖図書室との連携がとれた移動図書事業を行うことができた。
- ・ 保健センターで実施している乳幼児検診時のブックスタート事業において、保健師と図書司書と連携して絵本の読み聞かせを行うなど、乳幼児期から本に親しむ環境の充実を図った。

【課題】

- ・ 中学校、高校において移動図書や学校図書館の利用が少ない傾向にあることから、よりよい読書活動を推進するために図書担当教諭と図書司書とのさらなる意見交換等が必要である。
- ・ ブックスタート事業の取り組みを継続して行い、親子の絆を深めるため、読書活動も大切な役割を担っていることを引き続き伝えて行く必要がある。

《 4. 施策推進のための課題》

【成果】

- ・ 山美湖図書室と保健センター、保育所、子育て支援センターが連携し、読書活動を推進したことで、乳幼児と保護者との読書活動の理解を進めることができた。
- ・ 図書ボランティアが、図書室の整理や読書活動推進事業の企画など積極的に関わることにより、町内の読書活動の推進を充実させることができた。

【課題】

- ・ 保健福祉部局との連携だけでなく、他の行政部署や企業との連携による取り組みの更なる充実が必要である。
- ・ 積極的な活動を行っている図書ボランティアの充実を図るため、人材を育成し、図書ボランティアの登録会員数を増加させる必要がある。

第 1 次計画の総括

壮瞥町では平成 21 年に山美湖図書室がオープンし、図書室の利用者数、貸出冊数が増えましたが、児童生徒の利用は増えていない状況にあります。

平成 25 年度の全国学力・学習調査では、読書に関する質問に対し、小学生では、読書時間は全道・全国とほぼ同等で、2 時間以上と回答した児童が多い反面、全く読書をしていない児童も多く、読書を好きと答えた児童の数が全道や全国と比べて低い状況にあるという結果でした。

また、中学生では、読書が好きと回答した生徒は 50% 程度と低いですが、学校図書館や地域の図書館に行く割合は、全道・全国と比べて多く、家や図書館で 1 時間以上読書する生徒も多いという回答でした。読書を全くしない生徒の割合も全道や全国平均に比べて少ないことがわかりましたが、読書時間が 10 分以下の生徒が非常に多くなっているということから、山美湖図書室や学校図書館との連携を深め、子どもたちに読書の楽しさ、大事さを理解してもらい取り組みをさらに進めていく必要があります。

学校図書館図書の蔵書冊数を見てみますと、壮瞥小学校は 4, 150 冊、久保内小学校は 3, 287 冊、壮瞥中学校は 3, 740 冊、久保内中学校は 3, 534 冊であり、標準蔵書冊数は小学校 3 学級で 3, 520 冊、6 学級で 5, 080 冊、中学校 3 学級で 5, 440 冊とされており、町内の学校図書館においても、標準冊数に近づけるために、図書司書を通じて適切なアドバイスを今後もしていく必要があると考えます。

また、山美湖図書室の年間貸出総数は、平成 23 年度 12, 444 冊で住民 1 人当たり平均 4.4 冊、平成 24 年度 12, 847 冊で平均 4.6 冊、平成 25 年度 13, 387 冊で平均 4.9 冊でした。

今後も、蔵書の充実をはじめ、様々な取り組みにより、子どもたちも含め、町民がさらに読書を楽しめる環境作りを進めていく必要があると考えます。

第 1 次計画における成果と課題を踏まえて、壮瞥町子ども読書活動推進計画（第 2 次計画）では、子どもたちが読書を楽しむことができ、また、山美湖図書室の利用を進め、住民 1 人当たり平均 5 冊以上の図書貸出を目標として、各種取り組みについて定めることとします。

第2 子どもの読書活動推進施策

1 家庭・地域・学校等を通じた社会全体で子どもの読書活動の推進

壮瞥町では図書ボランティア、読み聞かせボランティア等との連携による様々な読書活動推進事業を実施し、就学前児童・保護者の図書室活用者数が増加しましたが、児童生徒による利用、図書貸出が少ない状況にあります。

このことから、子どもたちが読書に興味・関心が持てるような読書活動推進施策を展開していきます。

(1) 家庭における読書活動の推進

家庭では、絵本や物語の読み聞かせをしたり、家族で図書室に出向いたりするなど、子どもが本に出会い、本に親しむきっかけをつくるのが大切です。

決まった時間に家族で読書をするなどして、子どもの読書習慣の形成を図ったり、読書を通じて子どもが考えたことを話し合ったりするなど、読書に対する興味や関心を高めることが重要です。

【具体的な取り組み】

- ・ 乳幼児の保護者を対象とした絵本や物語の読み聞かせ講習会など、親子で読書をする機会の更なる充実を図ります。
- ・ 定期健診時の乳幼児を対象としたブックスタート事業と図書室でのお話し会を継続して実施します。
- ・ 学校図書館や山美湖図書室での読書だけではなく、本を借りて読む「家読」の取り組みを推進します。

(2) 地域における読書活動の推進

① 山美湖図書室での読書活動の推進

山美湖図書室は、読みたい本を探し、読書の楽しみを得る事ができる場所であると共に、乳幼児期から読書に親しむ習慣を身につける事業を実施することができる施設の役割を担っています。

また、図書・読書に関する情報を手軽に入手でき、利用しやすい環境となるよう情報提供を進め、読書活動の普及・啓発に努めます。

【具体的な取り組み】

- ・ 新着図書や推薦図書の情報提供や蔵書の充実を図ります。
- ・ 多様な図書や関連展示等を行い、興味の対象を広げ深める手助けをします。
- ・ 読書の大切さに関する講演会や、家庭における読書活動のための実践的な講座を実施します。
- ・ 図書システムの構築に努め、図書室の資料検索がしやすい環境づくりと、ホームページを活用した図書、読書に関する情報提供の充実にも努めます。
- ・ 社会教育事業と連携し、読書活動の普及・啓発を図ります。
- ・ 道立図書館や他市町図書館と連携し、図書に関する情報共有や図書の相互貸借

を進めます。

- ・ 読書に関するレファレンスサービスを充実します。
- ・ 近年普及している電子書籍の蔵書化を検討し、先進事例の研究等を進めます。
- ・ 図書ボランティアの育成に努めます。
- ・ 20年にわたるケミヤルヴィ市との友好関係を深め、相互理解を進めるため、フィンランドに関する図書のさらなる充実に努めます。

② 地域に対する子どもの読書活動の推進

子どもたちに読書の楽しさを理解し、もっと本に親しんでもらうため、子育てサークル活動やPTAによる研修会等で、子どもの読書活動の重要性について保護者への啓発が求められています。

また、山美湖図書室には、乳幼児期から親子で多くの本に親しんだり、友達とのコミュニケーションを深める場として活用されることが期待されています。

【具体的な取り組み】

- ・ 3日に1冊読書運動を呼びかけます。
- ・ 様々なジャンルの読書情報の発信基地としての機能をもつ図書室づくりに努め、また、読書推進活動の一環として人形劇、映画上映会や各種講座などの事業を継続します。
- ・ 子ども読書週間において、読書に関する様々な事業を行います。
- ・ 山美湖図書室での季節ごとの行事や飾り付けの工夫、特別展示の開催など、これまでの取り組みを継続、充実していきます。

(3) 学校等における読書活動の推進

学校や保育所では、子どもの発達段階を踏まえて、読書の楽しさを指導するとともに、計画的・継続的に読書活動を推進する多数の機会があります。

保育所における絵本や物語の読み聞かせ、小学校、中学校、高等学校における、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等を通じて、子どもの望ましい読書習慣の形成を図ることができ、また、学校図書館の有効活用が期待できます。

【具体的な取り組み】

- ・ 「朝の読書」や読み聞かせなど、本に親しんだり、読書の楽しさを味わう時間を確保し、子どもが読書習慣を身につける機会の充実に努めます。
- ・ 保護者やボランティアとの連携による読書活動を推進します。
- ・ 図書委員会、児童会、生徒会活動を通じた読書活動の工夫や、学校図書館の利用、活用の指導と啓発活動を行います。
- ・ 学校の教育活動全体を通じて、多様な読書指導の展開に努めます。
- ・ 身近に本のある環境を整えます。
- ・ 異校種の交流による読書活動の機会を提供します。
- ・ 保育所では、読み聞かせによる本に親しむ活動を推進するほか、遊びにおける絵

本や物語等の積極的な活用を行います。

- ・ 保育士によるお薦めの本の紹介など、多様な本と出会う機会を設けます。

2 子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備

児童生徒の積極的な読書活動が図られるよう、学習活動に活用できる児童書の収集をはじめとする読書環境の整備と、図書室機能の充実・サービスの向上が求められています。

図鑑や専門書を中心に蔵書している山美湖図書分室の有効活用を図ります。

(1) 壮瞥町における取組

壮瞥町では、読書活動推進計画に基づく様々な事業を実施していますが、子どものたちの発達段階に応じた読書活動が図られるよう、様々な取り組みを行っています。

今後も引き続き、山美湖図書室、子育て支援センター、保育所、学校等における読書活動の実態を踏まえ、乳幼児期からの子どもの読書環境づくりの充実に努めることが必要です。

【具体的な取り組み】

- ・ 壮瞥町子ども読書推進計画をホームページに掲載し、町内周知します。
- ・ 学校、保育所、児童館への移動図書を継続して実施します。
- ・ 図鑑や専門書を中心に蔵書している山美湖図書分室が学習活動に役立つよう、蔵書リストの紹介機会を設けます。
- ・ 図書フェスティバルを継続して実施します。
- ・ 学校、保育所や子育て支援センター、保健センターと連携し、引き続き読書活動の推進に努めます。

(2) 学校図書館における取組

学校図書館の有効活用により、読書活動を一層充実する必要があります。また、学校図書館は、子どもたちにとって心の居場所となる「いつでも開いている図書館」であることが求められています。

このことから、司書教諭や担当教員を中心に、計画的・継続的な整備・充実に努めます。

【具体的な取り組み】

- ・ 保護者やボランティア、山美湖図書館との連携を図り、学校図書館の充実を図ります。
- ・ 学級文庫等の設置を推進します。

添 付 資 料

1 全国学力学習状況調査結果 壮瞥町教育委員会 (読書に関する状況を抜粋)

平成25年度 読書に関する状況 2～4

平成24年度 読書に関する状況 5～7

平成23年度 読書に関する状況 8～9

2 平成20年度～平成25年度図書室利用記録 10